

語釈：インターネット Twitter 上でみる Trump 米大統領の英語 (67)

(A Basic Way of Reading Trump-Language)

後藤 寛

<注>本連載「語釈」は Trump 氏の大統領 1 期目での tweets を題材とした意味解釈考であるが、彼の 2 期目の大統領就任 (2025 年 1 月 20 日) に伴い今回以降、表題での「前大統領」の「前」は削除し 1 期目の職名に戻すこととする。改めてトランプ劇場(Trump theater)の始まりとなるが、彼の演じる特異な政治言語の意味劇場(theater of meaning)は本連載で見ている 1 期目がポイントだろう (今後の 2 期目は必然的に 1 期目がベースとなる)。

本連載(64)で触れたが、今日の世界の政治は古代ギリシャ時代のプラトン著『国家論』などで展開された理念のものとは違う。肉体(body)と心・精神(mind)の調和という崇高な理念の下で、神を崇める行事としての当時のギリシャのオリンピック競技も今日風のものとは異なっていたわけである〔本連載(同 64)参照〕。政治も究極的には神の法(the law of God)の支配という視点から見るとすべきとなる。

今回も神ではない人間 Trump 氏の語っているような書き方、音声として彼の口から聞こえてくるような言文一致体に近い特徴あるメディア英語 text 文を見してみる。意味には光(light)と影(shade)があるが人間 Trump 氏の発話にはほとんど影は見なく、かなりの鮮度で透明に映る。分かりやすく ogdenism (オグデン語法) を見る上でも参考となる。<Morpheme>→<Word>→<Sentence>→<Text> ⇒ <Pattern>へと Word を軸に流れの中で何かと見定め、意味解釈とともに内省(self-reflection)しておきたい〔本連載(59), (60), (61), (62)で触れた Blocker, G. (1974) *The Meaning of Meaninglessness* 『無意味の意味』での鏡(mirror)に映る projection (射影) の見方など参照〕。

今回は (1)自動車業界に関するもの、(2)当時の米中貿易戦争での米国側から中国側への対抗措置に関するものの 2 例を見してみる。スペイン語対照の tweet は今回は省略する。

(1) The Legendary Henry Ford and Alfred P. Sloan, the Founders of Ford Motor Company and General Motors, are “rolling over” at the weakness of current car company executives willing to spend more money on a car that is not as safe or good, and cost \$3,000 more to consumers. Crazy! (August 21, 2019)

▲「Ford 自動車と General Motors の伝説的な創始者 Henry Ford と Alfred P. Sloan は“身もだえ”だ、最近の自動車会社幹部は安全でもなく良くもない車にさらに金を費やし、消費者には三千ドル(30万円以上)余分に費用がかかるようにし弱体化している、馬鹿げている！」と言っている内容である。

太線語 legendary (伝説的な) の語根部 leg には「見えるように、読めるように選んで下に置くこと」の意味がある。本連載(12)、(30)、(41)の(1)で扱った Basic 語 **selection, low, law**、プラス α Basic 語 **layer** (層・階層) などとも同系。un-Basic 語 election, collection, neglect, lecture, lesson, intellectual, elegant, delegate, legal, privilege {privi (= private) + lege (= law)} (特権)、legitimate (合法的な・正当な) などすべて同系である。原義に「読み取ること」の語感がある。たとえばラテン系スペイン語で leer は「読む」の意味である〔拙著(2016)「松柏社」、第二部、例(87)参照〕。

太線の Basic 語 **company** が歴史的に最初から「会社」の意味であったはずはないわけで、もっと簡素なものが原義であったはずとなる。意外に誤解されてもいるが原義は「父」で、いわゆる「パン」ではない。印欧祖語の語根音素形は/PA/で、/PA/ は /MA/ (母) と対をなし、/MA/ がつくる食べ物を採ってくるのが/PA/ で、その食べ物はたとえばラテン系スペイン語の pan (= bread)ともなった。

「パン」以前に「父」ありで、company {com (= together) + pany (= father)} は「父・母と食事を共にすること」→「親しい間柄」→「仲間」から、「会社」の意味ともなった。江戸時代の「株仲間」を想起もさせる。音素/P/ ⇒ 音声[f]の Basic 語 **father, food** は company と同系であるし、[p]音をもつ Basic 語 **paste** や un-Basic 語 pantry (食物の貯蔵庫) などとも同系。音と文字の一体化で **phonics**

(フォニックス)とも関わる〔他の同系語の例は本連載(61)および同上拙著、第二部、例(57)参照〕。
 太線語 **executives** は強音節部の音形[zékju]に注目するのである。有声子音[z]は無声子音[s]で[sék]ともなるが「追い求め、やり抜くこと」の意味をもつ。会社などでは事の執行者ということで「幹部」の意味となる。Basic 語 **second**、un-Basic 語 **persecute** (迫害する)、**execute** (執行・処刑する)、**seek** (求める)、**sequence** (連続)などは同系〔本連載(48)の(1)、また同上拙著、第二部、例(39)参照〕。
 太線のプラスα Basic 語 **cost** の末尾子音[st]に「立って動かないこと」の意味が隠れている。本連載(31)の(2)、(64)の(1)で扱った。Basic 語 **stage, station, store, star, still, distance** などをはじめ、膨大な数の同系語が英語となった〔同上拙著、第二部、例(62)参照〕。

下線部 **spend ... on** は本連載(53)で商取引の例として **C. J. Fillmore** の **Frame Semantics** (フレーム意味論)の視座から **sentence pattern** を図表化したので要確認。また文末尾での **cost ... to** も同表での **frame** と筆者風の **N₁-V-N₂-ADV** は結びつくと考える。<**SIT/SEN**>でのポイントだろう。

下線の句 **not as safe or good** は **neither safe nor good** の意味となる。neither ... nor は Basic ではないが、**not ... or** でさらりと Basic 表現法となる。neither は {nei (= no) + ther (= either : どちらか一方)} から「どちらか一方でない → どちらでもない」で、-ther は「区別すること」の意味の接尾辞に由来する。これは **whether** (<whe「疑問」+ ther) の意味とも関わる。実は **distributive** (配分詞) の **either** は **one or the other of two / one and the other of two** の意味で、referent (指示物) が 1 つのみならず 2 つの場合がある点には要注視。例に **on either side of the street = on both sides of the street** がある〔**distributive** に関しては **Ogden-Richards** の *The Meaning of Meaning*, p.88 参照、また **neither ... nor** は EP 本なら III, p.129 での提示となる〕。EP 本では I, II での語の提示順、III では各頁別テーマを押さえる必要がある。前者では本会 *Year Book* No.71 (2019), pp.24-27 での拙稿「語の提示順早見表」、後者では *Newsletter* 連載稿(50)と(51)の間(2023年6・7月)で一時的に2回に分けて扱った拙稿「頁別テーマ早見表」はそれぞれ末永く役立つだろう〔この後者の早見表「頁番号232」での **J. A. Comenius** の生存年にミスをしたが追ってその後、西暦1592-1670と訂正した〕。ただ、そもそも Basic 実践で EP 本に基づいた **graded (G)** であり **semantically sequenced (SS)** だと銘打つ限り、常にその前後の流れの提示・確認が必要となるが、これが一筋縄ではない点には要注意となる。

なお、neither と関連し **neutral** も似た語で {ne (= not) + utral (= two)} (2つのうちのどちらでもない) という見方から「中立の」の意味となる。さらに関連し **for good or bad** (良かれ悪しかれ) のような言い方で元来が **other** の短縮形の **or** では、2者が **neutralization** (中和化) され「どちらも」ということになる。other と or では other が 100 年以上早い初出であったことを英語史は教えるが、or の意味的中和化は本連載(36)で確認した。言語の見方として **diachronic** (通時的) と **synchronic** (共時的) は対立するものではない。適宜、両者を取り込んで考えればよい。

次に音声面から弱音系と強音系の語の2分割とともに、[l]音と[r]音(米音)の2分割でも示しておく。強音系の語の縦読みで意味はほぼ理解できるが、弱音系の縦読みではまったくの無意味となる。

語の弱音・強音で感知する英音の心的2拍子リズム(mental prosody)

| (弱音系) | (強音系) |
|--------|---|
| The | Legendary Henry Ford |
| and | Alfred P. Sloan, |
| the | Founders |
| of | Ford Motor Company |
| and | General Motors, |
| are | “rolling over” |
| at the | weakness |
| of | current car company executives willing |
| to | spend more money |

| | |
|---------|------------------------------------|
| on a | car |
| that is | not |
| as | safe |
| or | good, |
| and | cost \$3,000 (three thousand) more |
| to | consumers. // |
| φ | Crazy ! // |

(2) For many years China (and many other countries) has been taking advantage of the United States on Trade, Intellectual Property Theft, and much more. Our Country has been losing HUNDREDS OF BILLIONS OF DOLLARS a year to China, with no end of sight.

Sadly, past administrations have allowed China to get so far ahead of Fair and Balanced Trade that it has become a great burden to the American Taxpayer. As President, I can no longer allow this to happen in the spirit of achieving Fair Trade, we must Balance this very unfair Trading Relationship ...

Starting on October 1st, the 250 BILLION DOLLARS of goods and products from China, currently being taxed at 25%, will be taxed at 30%. Additionally, the remaining 300 BILLION DOLLARS of goods and products from China, that was being taxed from September 1st at 10%, will now be taxed at 15%. Thank you for your attention to this matter ! (August 23, 2019)

▲ 4回に分けた tweet であったので一部省略した(破線部)。数値(number)が多く出てくるが、ビジネスの世界では桁数を1つ間違えば大ミスとなる。交渉(negotiation)も必然的に真剣勝負となる。政府間の交渉を取りもつ日本人通訳官などはまさに真剣勝負をする英語のプロ職人で、その点では日本の学校の教室で英語を扱っているのとは根本的に異なる。現地で衣食住を基本に生きるための日常生活で身につける英語は徐々に確かなものとなるが、言語理論的には社会言語学的な structural linguistics との関わりでの問題となる。なお、negotiation は{neg (= not) + oti (= free) + ation}で「のんびり構えておれないこと」の意味である。

第1段落は「何年間も中国は(多くの他国も含めてであるが)貿易(trade)・知的財産(intellectual property)の窃盗など多面で米国を利用してきたので、わが国は中国には年間何千億円もの損失で先も見えない」となる。以下も中国との商取引(business transaction)に関わる内容である。

第2段落は「残念ながら過去の政権が中国にフェア(fair)で均衡のある(balanced)貿易からほど遠いものにさせ米国の納税者(taxpayer)に大きな負担をかけてきた、大統領として私はフェアな貿易推進という精神からもうこれを許すわけにはいかない、われわれはこのフェアでない貿易関係(trading relationship)をバランスのあるものにする必要がある...」.[文中の so ... that に要照準]。

最後の段落は「10月1日より中国から輸入する二千五百億ドルの製品・産品(goods and products)に目下25%の関税を30%とする、さらに9月1日付けで10%の課税が見込まれていた残りの三千億ドルの製品・産品には15%の税を課すこととなる、本件への理解に感謝したい!」という内容である。

要するに、米中貿易戦争(U.S-China trade war)での米国側の中国への不満と対抗措置の内容であるが、結果的にはその後この対抗措置は見送られた。

太線語 advantage は本連載(11)で音的強勢のかかる ant [áent]の部分が語根であり、「前」の意味だとして扱った。[ænti:]となる antique (骨董品・古風な)は同系であるし、[áens]となる advance も同系だと言った。なお、You have the advantage of me. (お見それしました)という英語もある。

太線語 intellectual (知的な)は上の(1)の legendary の例で見たとおりである。

太線語 balanced は本連載(64)で確認した。Basic 語 **balance** の ba は数の two 「2」の意味である。{ba (= two) + lance (= plate)}で、元々は「天秤(てんびん)に掛けた2つの皿」のこと。なお、semiotics / semantics (記号論 / 意味論)的に天秤(scale, balance)は意味の重さ(重要度 : weight)

をつり合いで計る道具を暗示もする〔EP 本なら II p.81、III p.165, p.204, p.212 の図絵参照〕。

太線語 *burden* (負担・重荷) は本連載(4)の②で見た。PIE etymon は/BHER/とされ Basic 語 *birth* などと同系で、原義は「荷を負って運ぶこと」。*[b]*が*[f]*となった Basic 語 *fertile* (多産の)、*[p]*ともなった *support, porter* など、プラス α Basic 語 *sport, export, import* など同系統。un-Basic 語 *disport* (気晴らしをする)、*suffer* (悩む) など同系〔他の例は同上拙著、第二部、例(66)参照〕。

文中での下線語で Basic 語 *sadly* (残念ながら) や *currently* (目下) の末尾に本連載で注目している *-dly [dli]* と *[tli]* 音がまたも現れるが、それぞれその響き方(sonority)には要注視である。*[dl]*, *[tli]* で舌をはじく(flip させる)と本物音に響かなくなる。*[li]* 音は唇を縦長ではなく横長にするのである。

-tl- consonant cluster (*-tl-*子音群) に関しては本連載(43)で *absolutely, directly, approximately* の例、(45)の(2)で *immediately* の例ですでに触れたが、*[tli]* 音は *[t]* で一瞬息の詰まった真空状態のようにもなり側音 *[l]* の伴う *[li]* で息が吐き切られる響きがネイティブの呼吸法(way of breathing)による原音である。*[-tl-]* と *[-dl-]* はやはり無声 *[t]*・有聲 *[d]* での声帯の振動の有無により微妙な響き方の相違がある。なお、*-ly* の原義(root sense)は like 「~のようである」でありそれに由来する。

いずれにせよ、受動的に英音の響き方・聞こえ方にはどれだけこだわり続けてもよいが、能動的に自分の発音法にあまり意識的になるとかえって自然さを欠き、不自然に響くので要注意と言える。筆者の観察では日本生まれの日本育ちの日本人で英語の発音(enunciation)を執拗に説く人自身の発音には例外なく必ず(必ずである)ある種の妙な意識とこだわりが感じられ、無意識状態での自然なものに響かない。*[tli]*, *[dli]* 音も無意識で出るようになれば響き方も自然となるはずだろう。

英語は日本語を話しているときの音色とはまるで変り同一人物ではなく別人のように響くのが本来で、周波数の違う本物英語ということになる。話す英語が日本語のときも同じような感じに響くものは *fake* ということになる。声優などは意味劇場での声の演者として自分の顔がテレビ画面上に映される(鏡に映る)のを嫌うのは視聴者が心の中で描く人物像やイメージを壊したくないのだろう。

下線とした ... *losing HUNDREDS OF BILLIONS OF DOLLARS a year to China* では *losing* は後ろで *to* と結びつくことに留意がいる。本連載(61)でも触れた。

また下線部 ... *currently being taxed* (最近課税された) と ... *that was being taxed from September 1st at 10%* (9月1日付けで10%の課税とされていた) では、後者の日付が9月1日での *tweet* の日付8月23日の後のことであるが、意味としては「9月1日付けで課税ということになっていた」となる。

文中で4つの *at* に二重下線を付しておいたが、「x %の課税」は *be taxed at x %* のように数値を固定する言い方では空間詞は *at* となる。

情報処理と理解法上、第1段落での *losing ... to China*、第2段落での *so ... that*、第3段落での2つの挿入句 *currently being taxed* と *that was being taxed from September 1st at 10%* をしっかりフォローしたい。本連載前々回(65)で示唆した超高速幻聴黙読(AH-SRSR)での読み込みである。

ここでの(1), (2)の *tweet texts* は単に2項対立の論理であり、意味が簡素で曖昧性のない KISS (Basic: Keep it short and simple.)文である〔前々回(65)参照〕。*Politics and the English Language* 『政治と英語』(1946)を書いた George Orwell (1903-1950)なら Trump 氏の演ずる意味劇場で事の真偽(true or false)は抜きにして、米国政治に関しなりふり構わず書く飾り気のない *straightforward* で *good or bad* の2項対立論法での彼の英語文そのものには影はないとして称賛しただろうか(?)。

G. Orwell (*ibid.*) は *What is above all needed is to let the meaning choose the word, and not the other way about.* 「意味から語を選択せよ、その反対ではない」〔下線は筆者〕と言っているが、これは Basic 言語(ogdenology)でのオグデン語法(ogdenism)とも一致する。さらに *Never use a metaphor, simile or other figure of speech which you are used to seeing in print.* とも言い、政治言語で *metaphor* (隠喩) や *simile* (直喩) など言葉のあやを含めることを戒めている。Trump 氏はこの種のものを用いることは少なく、基本的に上記 KISS 文を用い「語釈」上も意味が透明化する。彼は *witch hunt* (魔女狩り) という言葉を頻繁に用いるが、ストレートで意図する意味はよく分かる。

